

業界最大級の品揃えで、パチンコ店の集客を活性化 株式会社光新星

パチンコを楽しんだことのある方はよくご存知だろう。パチンコ店の進化は日々凄ましい。パチンコ台の入れ替えはもちろんだが、注目は周辺の備品類。例えば、お客様が長時間、心地よく座れるようにと考え作られた椅子。持ち手に工夫を凝らし重ねやすくした玉箱。さらにスマホホルダーやおしぼりポケットなど、至れり尽くせりのサービスに驚く。

これらパチンコ店のサービスを陰で支えているのが、株式会社光新星。パチンコ玉・メダル・玉箱の製造から、台車、プレート、のぼり、ディスプレイ、工具、椅子、機械設備、ユニフォームといった備品販売まで、遊技場関連の商品を取り揃える。「各商品アイテムを製造・販売する会社は多数ありますが、そのほとんどを扱っているのは当社だけです」と、商品部・物流管理部、部長の植村洋一郎氏。

お客様の要望に応じて63年。業界に特化した総合商社へ

同社は1951年創業。戦後の混乱期に初代・當山敏雄氏がパチンコ玉の原型となる炭素鋼球の製造に着手。新星鋼球株式会社を設立する。その後、26年の歳月をかけて鋼球の改良を重ね、真円球に限りなく近い球に硬質のクロムメッキを施した「ダイヤボール」を開発した。これを機に製造と販売機能を統合。株式会社光新星に社名を改め、遊技場関連の総合商社として成長。現在、パチンコ玉の製造販売ではシェア80%を誇る。



商品部ではバイヤーが中心になり、商品の開発・調達を行う

背景には、お客様の細かいニーズに耳を傾けるという地道な努力がある。「当時、パチンコ玉の販売先のお客様から、「パチンコ玉を入れる箱がほしい」「専用の工具を作ってほしい」といった数々の要望がありました。これにお応えするため、製造や部品、備品を揃えるうちに取り扱う商品が増え、会社も大きくなったそうです。」

それは、ハンマーの例からも窺える。「パチンコ台の釘は、鉄ではなく真鍮でできています。ホームセンターなどで簡単に手に入る鉄のハンマーでは真鍮の釘を傷めてしまう。そこで、パチンコ専用ハンマーというニーズが生まれました。」同社のハンマーは、「ヘッド」と「柄」の部分を組み合わせることで、オリジナルハンマーが作れる。ちなみに「ヘッド」は真鍮・ステンレス・鉄製など22種類。「柄」は白木・漆塗りなど21種類あり、品揃えに対するこだわりは圧巻だ。

「景品」市場の潜在ニーズを掘り起こす

そんな業界一の品揃えを誇る同社が、成長に期待をかける分野がある。それが「一般景品」だ。パチンコ店では、出玉(1玉=4円として)を現金ではなく景品と交換できる仕組みになっている。一般景品には、業界用語で「景品」(1万円以下)と「端玉」(500円以下)と呼ばれる2種類がある。

この分野に参入したのは16~17年前。それでも同社の歴史の中では後発という。「どんな景品が求められているのか?」最初の取り組みは、潜在ニーズの掘り起こしから始まった。植村氏は「マーケティングの考え方を社内でも共有し、これに合わせた情報収集・調達交渉・企画立案ができるよう推進。さらに、従来のパチンコ店のニーズからエンドユーザー目線の提案や商品開発に重点を置くようにしました。」

その結果、「景品」の品揃えは、トイレトーパーなどの日用品から、



TOKUSEN では人気アニメ「エヴァンゲリオン」「富士山世界文化遺産登録」にちなんだ商品を提案

ドイツ製の高圧洗浄機まで、2000種類を数えるまでに充実。また、ホール向けの月刊誌「特選」を発行し、イベントや季節に合わせた景品を積極的に提案。「従来は、イベントのご要望を頂いてから商品調達を行っていましたが、これに先駆けて話題性ある企画や関連景品をタイムリーにご提案するようにしています。」これまでに、人気アニメ「エヴァンゲリオン特集」、「富士山世界文化遺産登録記念」など、ユニークなテーマで景品を提案し、集客の活性化にも一役買っている。



「端玉」景品のPB化で、さらに品揃えを強化

さらに、一般景品の中で最も力を注いでいるのが、「端玉」景品のPB (Private Brand) 化だ。「端玉」の対象になるのは、1~500円未満のアイテム。なかでも低価格品の開発が重要な課題という。「この世の中に4円以下で買えるもの(菓子)はほとんどありません。当社では各メーカーさんとタイアップして、1円~の景品をさらに作り出していきたいと考えています。」具体的には、ある菓子メーカーが量販店などで、数百円で売っているお菓子を、同社の販売価格(例えば30円)に合わせた内容量で特別に作ってもらう。このPB化の推進で、市場ニーズにマッチした安価で豊富な品揃えを提供。他社との差別化を図りたいという。



現在130種類あるPB商品の一部。お馴染みの人気商品も充実

現在、700種類ある「端玉」景品のうち、PB景品は、クッキー・米菓・チョコレート・キャンディー・珍味など、すでに130種類。さらに、より豊富な商品展開を目指して、今後もPB化を進めていく方針だ。これには「端玉」景品へのニーズが大きいことはもちろん、「常にお客様の満足を追求する」という理念も重なる。

植村氏は、「端玉」景品は、同社では取り扱いの歴史が浅く、伸び代がある分野。まだ大きな市場があると予測しています。パチンコ店には大規模店から駅前でこじんまり営業している店まであり、それぞれニーズが異なります。その規模に合わせたニーズを把握し、痒いところに手が届くサービスを提供していきたい」と語る。

こうした先に見据えているのは、ワンストップサービスの確立だ。「当社にお電話一本いただくだけで、お客様が求めるパチンコ店がまるごとつくられるよう、商品を効率よくスピーディーに提供していくことが私たちの使命。そのためには、部品から設備、機械、景品まで、すべてのニーズを満たす総合力と、他社に負けない品揃えの強化がますます重要になります。」業界大手の看板に慢心することなく、お客様の満足をとことん追求するチャレンジは、これからも続く。

株式会社光新星

代表取締役 當山 隆則

〒574-0044
大阪府大東市諸福5-13-12
TEL : 072-873-2300(代表)
FAX: 072-870-6440
http://www.hikarishinsei.co.jp

【事業概要】アミューズメント施設における設備機器・部備品・流通商品・遊戯台の販売・パチンコ玉・メダル等の製造・開発、店舗装飾品の制作・デザイン、省力機器の施工・保守メンテナンス 他